

土木学会 地震工学委員会
耐震基準小委員会 第26回委員会 議事録(案)

1. 日 時：平成13年6月28日(木) 14:00～17:00

2. 場 所：三浜ビル

3. 出席者：17名

4. 配付資料：資料26-1 耐震基準小委員会 第25回委員会 議事録(案)

資料26-2 土木構造物の耐震設計基準作成のための手引き 目次

資料26-3 第2章 設計地震動

資料26-4 講習会開催への工程表

資料26-5 「土木構造物の耐震設計ガイドライン」に関する講習会開催のご案内、他

資料26-6 地震工学委員会 耐震基準小委員会 今後の活動計画(案)

資料26-7 地震工学委員会「耐震基準小委員会」の委員公募のお知らせ

5. 議事内容：

(1) 耐基準小委員会 第25回議事録(案)の確認(資料26-1参照)

第25回委員会 議事録(案)について説明が行われ、その内容が確認された。

(2) 土木構造物の耐震設計ガイドライン（案）について（資料26-2,3参照）

1) 第2章 設計地震動

- ・ レベル1地震動の考え方については、レベル2地震動研究小委員会でも議論したが、その見解が分かれている。
- ・ 地震動に対する理解は近年、深まっており、これを出来る限り設計に反映させたい。
- ・ 設計地震動の位相特性や上下動について追加記述したい。
- ・ 「2.4.5 パラメータの設定」については、もう少し詳しく記述したい。
- ・ レベル1地震動とは何か。構造物の性能から決まるのか。地震動の大きさから決まるのか。
- ・ レベル1地震動は本来、構造物に要求される性能により設定されるべきである。
- ・ 構造物の性能と地震動の強さは、個別に決定することはできない。費用便益を考慮して決められるものである。
- ・ レベル1地震動にも、下限値を設定する必要があるのか。日本各地で地震危険度解析を行うと、その評価に大きなバラツキが生じる。
- ・ 構造物の種類や重要度によって設計地震動を変えるべきではないか。地震動の選定の段階で、重要度は考慮されているのではないか。
- ・ 地震動の強さについては、最大どのくらいの大きさのものが起こりえるのか示しておくべきである。その上で、ランク分けしてはどうか。
- ・ レベル2地震動を最大級の強さを持つ地震動としたことについては、一般市民に対して説明する必要がある。さらに大きい地震動を設定すると、コストが大幅に高くなる、等。
- ・ レベル2地震動は、活断層が特定できれば、色々な手法で評価できる。
- ・ ガイドラインの他の章では、特にレベル1地震動を意識した記述はしていない。「8章 構造物の耐震性能の照査」において、レベル1地震動に対する要求性能と照査について記述している。
- ・ 地震動のレベルと要求性能のレベルは、土木学会が規定するものではない。本来、事業者の判断や一般市民の合意によるものである。
- ・ レベル1地震動については、従来の設計法の考え方に引きずられるのではなく、将来の方向性を中心に記述して欲しい。

2) その他

- ・ 第2章の目次については、資料26-3の通り変更する。
- ・ 執筆担当、原稿提出状況の確認を行った。

(2) 講習会開催への予定（資料26-4,5参照）

- ・ 講習会開催までの予定は、資料26-4の通りとする。
- ・ 開催日は、11月16日（金）とする。
- ・ 講演者、パネラー等は、委員長、幹事にて調整する。
- ・ ガイドラインの説明では、委員会にて議論された内容を紹介してはどうか。
- ・ パネルディスカッションでは、将来の基準において、どのような内容は反映させたいか、といったことを議論してはどうか。

- ・ 原稿未提出者に対して、原稿提出依頼を行う。（7月第1週：締め切り）
- ・ 耐震設計ガイドライン（案）を全委員に郵送する。（7月第2週）
- ・ ガイドラインに対する個々の意見は、各執筆担当者に直接、メールにて連絡する。全体に対する意見は、西村委員長に連絡する。（8月第1週：締め切り）
- ・ 各執筆担当者は、個々の意見を集約し原稿の修正を行う。次回委員会にて修正内容を報告する。原則、大きな修正は行わず、表現等の調整を行って欲しい。

(3) 今後の活動計画（資料26-6,7参照）

- ・ 今後の活動計画は、資料26-6の通りとする。
- ・ レベル1地震動についても議論して欲しい。
- ・ 次期委員長には、当麻幹事長を選任することが承認された。
- ・ 現委員の継続的な参加を依頼するとともに、委員の公募を行う。

(4) その他

- ・ 次回の小委員会の予定は以下の通りである。

日時：平成13年9月14日（金）14:00～

以上

記録：沢野嘉延